

日本フンボルト協会 2022年度第2回常務理事会議事録

日 時：2022年8月27日（土）14時から16時15分

形 態：オンライン会議

出席者：伊藤眞（理事長）、縣公一郎（副理事長）、伏木信次、広渡清吾、居城邦治（北海道支部長）、守矢健一、西土彰一郎、岡林洋、坂越正樹（中四国支部長）須田利美（東北支部長）、高橋輝暁、高橋義人、高山佳奈子、武内謙治（九州支部長）鏑田武志、山本敬三、関映子（事務局）

【報告事項】

1. 本年度のオンライン総会について

事務局より、下記のとおり、本年度のオンライン総会について報告があった。

- 参加者 65名（講演会のみ参加12名）
- Goetze 駐日ドイツ大使の講演については、紙幅の関係上、ドイツ語のみを会報に掲載する予定。

【審議事項】

1. コロナ第7弾 Zoom 討論会（9月17日（土））について（「資料1 プログラム」参照）

(1) 縣副理事長より9月17日のコロナ第7弾 Zoom 討論会について、下記の要領で開催する旨の説明があった。

- 日時：2022年9月17日（土）14:00～16:30
- 形式：当初、ハイフレックスでの開催を予定していたが、その後のコロナ感染状況などを踏まえ、理事長・副理事長で協議の結果、Zoom方式のみでの開催となった。
- テーマ「Globalism, NationalismそしてLocalism」
- 講演者および演題
 - ・城山英明 氏（東京大学法学部政治学研究科教授）
「新型コロナウイルスに関するグローバル保健ガバナンスと日本の対応の課題」
 - ・川村陶子 氏（成蹊大学文学部教授）
「コロナ禍におけるドイツの保健ガバナンス：国際文化関係運営の視点から」

(2) 講演の Youtube 配信については、伊藤理事長から、講演者の意向を踏まえ対応したい旨の提案があり、対応については、理事長・副理事長に一任することが承認された。

2. Humboldt-Kolloquium（2022年11月17日、18日に開催）について

（「資料2 AvHからのプログラム」

参照）

- (1) 伊藤理事長より、フンボルト財団本部から2022年11月17日・18日にオンラインで開催されるコロキウムの前日（11月16日）に、フンボルト奨学金に関心のある若手研究者向けの企画（説明会）を計画しており、本協会にその協力依頼があった旨の説明がなされた。
- (2) 日本フンボルト協会も、ドイツ研究留学説明会を11月23日に開催する準備を進めていたが、ふたつの留学説明会が近接した日程で開催されることになった。
- (3) 上記の点について、審議の結果、
 - 11月16日に予定されている財団企画については、日本フンボルト協会として協力する。
 - 財団企画に協力する上での問題点や課題を含め、具体的な協力内容について財団に問

- い合わせることになった。
- 11月23日に予定していた本協会主催のドイツ研究留学説明会は、適当な時期に延期して開催することになった。

3. 本年度の日本フンボルト協会主催、ドイツ研究留学説明会の開催について

- (1) 鏝田常務理事より、2022年度日本フンボルト協会主催のドイツ研究留学説明会の準備進捗状況について説明があった。新たな日程については、改めて、研究留学説明会の各分科会司会者と相談のうえ決定する旨の提案がなされ了承された。

補足：その後、鏝田常務理事から、本協会主催のドイツ研究留学説明会は、2023年3月25日に開催することになった旨、連絡があった。

- (2) 鏝田常務理事より、説明会を Zoom ウェビナーで行うことの提案があり、引き続き検討していくことになった。
- (3) 留学説明会の前半部分の全体説明会を録画して Youtube で公開する旨の提案があり、了承された。

4. 日独共同研究奨学金について (「資料3 2023年度選考委員一覧」参照)

- (1) 伊藤理事長より、日独共同研究奨学金について下記のとおり提案があり、審議の結果、承認された。
 - 今年の奨学金授与式について、可能であれば対面式で行う。助成研究者の訪日が困難な場合には、昨年同様、当該申請者の口座に奨学金を振り込む。
 - 2021年度の助成研究の報告書は10月末に提出される。
- (2) 伊藤理事長（浅田選考委員長代理）より、2023年度奨学金選考委員会について説明があり、伏木信次委員が退任して、細野眞委員が新たに就任する旨の提案があり、審議の結果、承認された。

5. 今年度の支部活動の予定について

今年度の支部活動の予定について、各支部より、下記のとおり報告があった。

- (1) 北海道支部
居城北海道支部長より、年度末に支部総会、講演会を計画している。
- (2) 東北支部
須田東北支部長より、11月以降に予定されている支部総会について準備している。
- (3) 関東甲信越支部
事務局（井田関東甲信越支部長代理）より、支部HPを充実すること、秋に会員による講演会、年度末に支部総会・講演会をそれぞれ計画している。
- (4) 関西支部
高山常務理事（西川関西支部長代理）より、3月のメールでの持回り審議において8名の役員・評議員就任が承認したこと、新役員による講演会を準備していること、近日中に拡大委員会を開催する予定。
- (5) 中四国支部
坂越支部長より、支部通信を発行したとの報告があった。

- (6) 九州支部
武内支部長より、支部総会・講演会を年末・年明けに計画している。

6. 来年度の総会について（「資料4 ゲーテの料金表」参照）

- (1) 事務局より、今後、対面式開催を検討していくとの提案があった。
- (2) 事務局より、ドイツ文化会館の施設利用に関する説明があり、下記のとおり、使用料が発生する旨の説明があった。
- ・ホール：一日 35,000 円+10,000 円（椅子並べの費用など）
 - ・小教室：1 万円+機材使用料（分科会のために）
 - ・大教室：15,000 円+機材使用料 5,000 円

7. ニュースレターの発行について

- (1) 事務局より、現在、今年度の総会の概要を記したニュースレターを作成していることの説明があり、郵送費削減等を考え、次回以降、デジタル化の可能性も検討する。
- (2) その際、年会費払込票の同封ができなくなることへの対応策、メールアドレスのない会員には引き続き会報を郵送すること等を検討することが報告された。

8. 年会費の納入状況について

- (1) 事務局より、下記のとおり、年会費の納入状況について説明があった。
- 現在の会員数 1,409 人。現時点の納入者は 413 名（昨年の納入者は 644 名であった）。ニュースレター送付の際に、未納者に払込票を同封して支払いをお願いする。
 - 長期未納状況
 - ・設立以来一度も支払いのない会員は 458 名
 - ・2013 年度のみ支払い 30 人
 - ・2014 年まで支払い 34 人
 - ・2015 年まで支払い 39 人
 - ・2016 年まで支払い 25 人
 - ・2017 年まで支払い 25 人
- (2) 伊藤理事長より、設立以来一度も支払いのない会員への対応策を検討する旨の提案があり、了承された。

9. 今後の Zoom シンポジウムについて

伊藤理事長より、今後の Zoom シンポジウムについて審議依頼があり、審議の結果、縣副理事長、西川副理事長（企画担当）を中心に企画委員会で検討することになった。

10. 「フンボルト奨学金応募の手引き」（藤原素子氏作成）について

（「資料：別ファイル 17 頁参照」）

- (1) 高山常務理事より、藤原素子氏（東京大学大学院、物理学専攻の PD）が作成した「フンボルト奨学金応募の手引き」の扱いについて審議依頼があり、審議の結果、本冊子は、個人的に作成されたとはいえ、内容的には、フンボルト奨学金について要領よくまとめられており、本協会としても、藤原氏本人を含め、若手研究者の同奨学金への関心が高まることは歓迎すべきであるなどの意見が出された。

- (2) 本協会としては、本冊子は、あくまでも個人的に作成された冊子であるが、本冊子が存在することは、本協会としても承知しているという立場に立ち、本冊子の記載事項についての問い合わせは、まず、執筆者本人にお願いし、必要に応じて、本協会としても適切に対応していくことが了承された。

補足：会議終了後、高山常務理事から本章冊子についての審議結果が藤原氏に伝えられ、藤原氏からは、本常務理事会に対し謝意が述べられ、「ご指摘いただいた修正点を反映したのち、高エネルギー理論物理のメーリングリストにより公開する」旨の返事があった。

11. 次回の常務理事会開催日程

伊藤理事長より、次回の常務理事会を以下の要領で開催する旨の提案があり承認された。

2022年12月17日（土）午後2時（日本時間）から

（以上）